

**小学校国語科学習指導要領における思考スキルの抽出
—中学校との系統的な思考力育成を目指して—**

小野塚 若菜 (ベネッセ教育総合研究所)
泰山 裕 (鳴門教育大学)
中村 和弘 (東京学芸大学)

研究の背景

- 「言語能力」について
(平成29年告示学習指導要領【国語編】 p.159)

言語能力は、全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である。このため、第1章総則の第3の1(2)において、「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。」とされているとおり、言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが重要である。

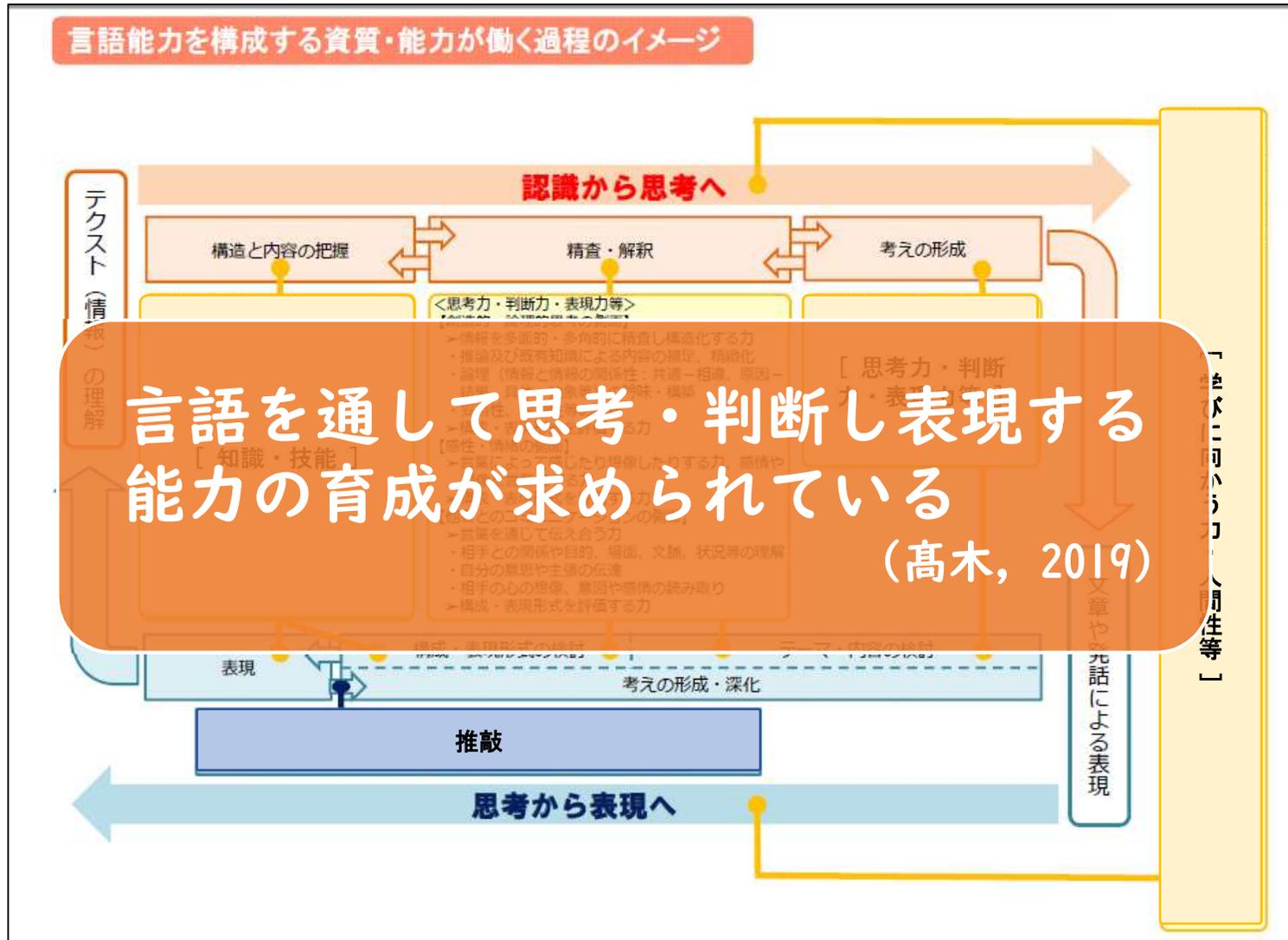
国語科で学ぶ

「話す・聞く、書く、読む」等の力を
他教科でも 実社会でも育むことが重要

研究の背景

• 言語能力とは

(文科省「言語能力の向上に関する特別チーム」まとめ※一部省略)

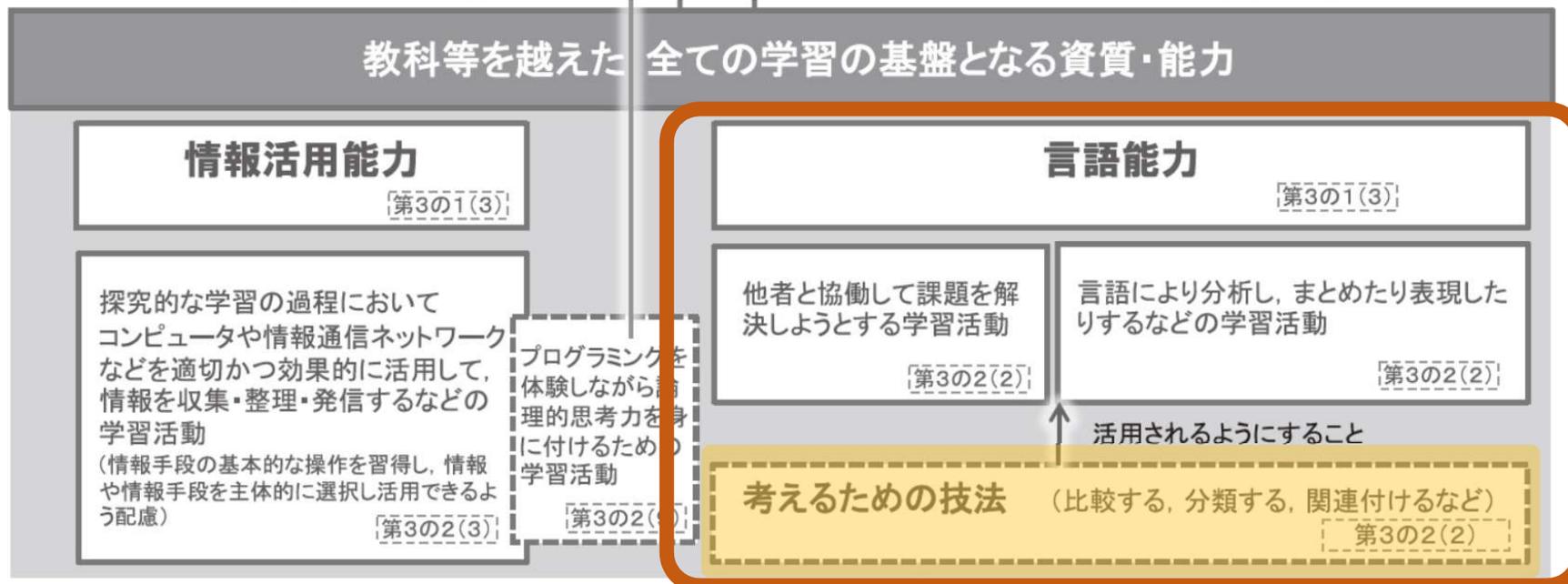


研究の背景

- 国語科では
思考力・判断力・表現力等の系統表（一部）

A 話すこと・聞くこと

		(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
		(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
話題の設定 情報の収集 内容の検討	ア	身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	イ	相手に伝わるように、行	イ 相手に伝わるように、理	イ 話の内容が明確になるよ
	話構成の			



出典：中央教育審議会（2008）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）

・「考えるための技法」⇒思考スキル

泰山ほか(2014)、泰山(2014)

- ・思考スキル = 思考を行動レベルまでに具体化させたもの
- ・教科共通の19の思考スキルを抽出

多面的に見る	変化をとらえる	順序立てる	比較する	分類する
変換する	関係づける	関連づける	理由づける	見通す
抽象化する	焦点化する	評価する	構造化する	推論する
具体化する	応用する	広げてみる	要約する	

【例：国語>話すこと・聞くこと>中3>構成の検討，考えの形成】

話し手(自分)の考えについて、聞き手(相手)が納得できるように、論理の展開を考えながら、話の組立てを工夫する

見通す・構造化する

聞き手に応じた説明を加えたり、見通す
具体的な事例を根拠として示したり、理由づける
語句や文の効果的な使い方を考えたりする 評価する

研究の背景

- 中学校新学習指導要領から抽出される思考スキル（上位5つ）
小野塚・泰山（2020）より

教科	1	2	3	4	5
国語	評価する	構造化する	多面的にみる	見通す	関係づける
社会	理由づける	多面的にみる	順序立てる	関係づける	比較する
理科	関係づける	変化を捉える	比較する	理由づける	抽象化する
4教科合計	関係づける	評価する	理由づける	多面的にみる	比較する

他者あるいは自身が書いた文章の構成や表現の効果を客観的に評価したり、複数の文章を多面的な視点で読んだりするときに働かせるもの

「言葉による見方・考え方」の一側面

※内訳： 国語326, 社会143 , 数学146, 理科328

- RQ

- ① 小学校国語科の思考スキルの特徴は？
- ② 思考スキルの小・中学校の系統性は？

研究の方法

- 分析手続き
泰山（2014）の方法に倣う

対象：小学校新学習指導要領解説【国語編】

1. 「思考力・判断力・表現力等」の記述文から19の思考スキルを抽出

集めた材料を分類したり関係付けたりして整理する 《分類する, 関係づける》
--

集めた材料を, 目的や意図, 相手に応じて《見通す》, 主張の理由, 事例として適切なものを選んだり《理由づける》, 優先順位を考えて並べたりする《順序立てる》
--

2. 専門家（国語科教員および教材開発者）による妥当性検証
3. 学齢別, 領域別に抽出数をカウント
4. 小野塚・泰山（2020）の中学校国語科の結果と比較

結果 小学校国語科学習指導要領解説から抽出された思考スキル

【表3】 学 齢 別

	低学年の目標 「順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする」			全学齢 N=368
1	順序立てる 20.0%(N=16)	見通す 14.7%(N=17)	評価する 16.9%(N=29)	評価する 13.9%(N=51)
2	佳占ルオズ 「設定した題材、事柄の順序、語と語や文と文との続き方などを意識しながら読み返す」	焦点化する 14.7%(N=17)	関係づける 13.8%(N=16)	評価する 14.9%
3				評価する 14.5%
4	評価する 10.0%(N=8)	評価する 12.1%(N=14)	見通す 9.9%(N=17)	見通す 10.6%(N=39)
5	関連付ける 8.8%(N=7)	「書く相手や目的に照らして、構成や書き表し方が適切なものとなっているかを確認する」	焦点化する 9.3%(N=16)	構造化する 9.5%(N=35)

「内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフなどの使い方は適切か」

結果 小学校国語科学習指導要領解説から抽出された思考スキル

【表5】小中比較

	小学校(N=368)	中学校(N=326)
1	<p>評価する 13.9%(N=51)</p>	<p>評価する 25.8%(N=84)</p>
4	<p>見通す 10.6%(N=39)</p>	
5	<p>構造化する 9.5%(N=35)</p>	

- 書いた文章を観点に沿って評価する>書くこと
- 文章の表現の効果について考える>読むこと

- 話の中で用いようとしている根拠が自分の立場や考えを支えるものとしてふさわしいかどうか考える>中2, 話すこと・聞くこと
- 文章を批判的に読んで自分の考えを持つ>中3, 読むこと
- 自分の考えを支える根拠として、客観性や信頼性の高い適切な情報を、書く材料として用いる>中3, 書くこと

• RQ

① 小学校国語科の思考スキルの特徴は？

- 《評価する》が全学齢で最も抽出数が多い
- 低学年では《順序立てる》が多い
- 「書くこと」領域では《評価する》が多い
- 「聞く・話すこと」領域では《見通す》が多い
- 「読むこと」領域では《関係づける》が多い

② 思考スキルの小・中学校の系統性は？

- 《評価する》が最頻出なのは共通
- 頻出する思考スキルは類似している
- 同じ思考スキルでも、小学校と中学校には“積み上がり”の系統性がある

⇒思考スキルを活用する活動の設計
⇒思考スキルを軸とした学習内容の整理
⇒高校の学習指導要領の分析

参考文献

- 青木一起, 森和久 (2018) 汎用的な言語能力を育む小学校国語科カリキュラムの立案と実践—名古屋市立大宝小学校での事例研究. 椋山女学園大学教育学部紀要11,167-178
- 言語能力の向上に関する特別チーム (2016) 言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめについて (報告) .
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/056/sonota/__icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377098.pdf
- 小野塚若菜, 泰山裕 (2020) 中学校新学習指導要領における思考スキルの抽出. 日本教育工学会論文誌, 44(suppl.)
- 坂尾知宏 (2014) 国語科における「活用する力」を高める言語活動の授業改善—「読むこと」領域における思考スキルの育成を通して. 宮崎県教育研修センター平成26年度研究員研究報告書, 1-20.
- 泰山裕 (2014) 思考力育成を目指した授業設計のための思考スキルの体系化と評価. 関西大学審査学位論文
- 泰山裕, 小島亜華里, 黒上晴夫 (2014) 体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討:学習指導要領とその解説の分析から.日本教育工学会論文誌, 37 (4), 375-386.
- 高木展郎 (2019) 言語能力の育成の重要性と言語能力を構成する資質・能力が働く過程. 初等教育資料980,2-5,東洋館出版
- 中央教育審議会 (2008) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
- 文部科学省 (2018) 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 国語編